
幸せになれなかった犬ジャック

クラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せになれなかつた犬ジャック

【NZコード】

NZ8348T

【作者名】

クラ

【あらすじ】

この話は私の体験した事実です。この話で私と同じように無責任に動物を飼ってしまう人を一人でも減らす事で、ジャックへのせめてもの償いをしようと思いました。

犬は昔から人間のパートナー、それゆえ他の動物と比べても人間との絆は深い。

犬には幸せになる権利がある。

だがこれから私が話す犬は幸せになれなかつた。

思い出すだけで後悔が押し寄せる、だが最後まで語らせて欲しい。これはかつて私がした過ちを繰り返し、不幸な犬が増えないよう私ができる唯一の罪滅ぼしかもしれないのだから。

私は中学2年生だつた。当時、明るく活発で部活に力を入れている13歳の少女だつた。

私はとても影響のされやすい子だつた。 その時私が夢中になつていたこと、それは漫画を読むこと。

何の漫画かとゆうと犬が主人公の冒険物の話だ。

毎週学校が終わると私は自転車でコンビニへ向かい立ち読みをしていたのだ。

その話を読んでいるうちに私は犬が飼いたくなつた。

実は小学生の時は雑種の犬を飼っていたのだが、一年前にその犬はいなくなつてしまつた。おそらく死んでしまつたのだろうがハッキリとは言えなかつた。なぜならばその犬は自分で首輪を外し出でいつたまま帰つて来なかつたから。

たまにどつかに行つてもいつもは帰つてくるのだがその時から姿を見ない。

途中で車に引かれてしまつたのかも知れない・・・。

とにかく家にはペットはいなく、庭は広かつたので犬は飼えるそれも大型犬が！

と思ったのだ。

そして私はこの事を今でも後悔している。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8348t/>

幸せになれなかった犬ジャック

2011年10月9日02時50分発行